

第40回 全日本教職員連盟
教育研究全国大会（宮崎大会）資料

【第1分科会 学習指導A】

テーマ「我が国と郷土の歴史や伝統・文化への理解を
深める学習指導」

西郷遺訓を朗誦する
朝のホームルーム

福岡教育連盟

福津市立津屋崎小学校

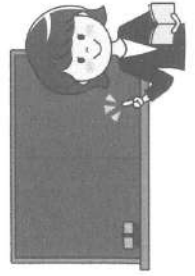
教諭 副嶋 海斗

日本がよみがえる授業実践 6

西郷遺訓を朗読する朝のホームルーム

福岡教師の会
公立小学校教諭

副嶋海斗



一、なぜ西郷遺訓なのか

現在、私は小学六年生の担任をしています。西郷隆盛を「生涯の師」と仰ぐ私は、今年度から本格的に西郷隆盛の言葉を柱とした教育実践に取り組んでいます。教員二年目のチャレンジです。具体的に言うと、毎朝、ホームルームで『西郷南洲翁遺訓』の言葉を朗読させています。

『南洲翁遺訓』とは、ほとんど文章を残していない西郷の言葉を後世に伝える数少ない貴重な語録であり、庄内藩（現在の山形県）の人々によって編纂されたものです。この庄内藩は、幕末期において西郷率いる薩

摩藩と敵対関係にあり、西郷は最も憎むべき相手でした。その庄内藩士が後々、西郷を慕って編纂したこの一書はまさしく「奇跡の書」と呼べるものであり、この語録が生まれたことに、西郷の偉大さが表れています。

西郷こそ、日本を代表する「誠（まごころ）の人」です。敵をも感動せしめる深い「誠」、これこそが西郷最大の魅力であり、今なお多くの日本人から「西郷さん」とさん付けで親しみをもつて慕われている^{ゆえ}だと思います。西郷は遺訓の中で「予は壯年より艱難^{かんなん}という艱難^{かんなん}にかりし故」と語るほど、二度の遠島^{えんとう}をはじめ多くの困難や不幸、失敗に直面します。しかし、

決して人や環境^{かんげい}を咎めず、学問を修めて己に克ち、誠を尽くし続けました。西郷の五十年の生涯は「誠を貫いた生涯」であったと言っても過言ではありません。

『南洲翁遺訓』は、誠を貫いた西郷の珠玉の言葉があふれており、「人生の教科書」と呼べる名著です。よって、是非とも西郷遺訓を子供たちに朗読させたいと思った次第です。

二、小学生に響いた西郷遺訓

子供たちの多くは、よく「言い訳」や「責任転嫁」をします。注意をされれば「あの人も同じことをやっていた」と、自分のことを棚に上げ、他を^{おとし}咎め自分を省みません。そのような子供たちに、西郷の如く「誠」をどこまでも貫く人になってほしい。自分の失敗や弱さを乗り越え、果敢に前を向いて歩み出す人になってほしい。そのような願いをもって朗読させています。

実際に毎朝朗読している遺訓の中で、子供たちにも人気のある言葉を以下に紹介します。

- ・人を相手にせず天を相手にせよ。天を相手にして己を尽くし人を咎めず、わが誠の足らざるを尋ねべし。
- ・過ちを改るに、自ら過つたとさく思ひ付かば夫れに

て善し。其事^{そのこと}をば棄て顧みず、直に一步踏み出す可し。

- ・天下後世までも信仰悦服せらるるものは、只是一箇の真誠^{まごころ}也。

子供たちの声も日に日に大きく、力強くなっており、毎朝、西郷遺訓が校舎に響き渡っています。特に反響がある遺訓が、最後に記した言葉です。朗読する際には、「よっしゃー！今日は『真誠也』の言葉だ」というリアクションもあります。六年生ということもあり、「自分たちが卒業した後も、下級生が真似したくなるくらいに誠を示したい」との思いを、この言葉によって強くしています。

子供たちの話し合いにより、この言葉はわが学級のスローガンにもなりました。教室には「いつまでも真誠を、熱く全力で未来へ羽ばたけ」と、スローガンが書かれた学級旗が掲げられています。

実は私のこの実践に対して、当初、管理職の先生方は「一人の人物だけではなく、他にもいろんな人物の言葉を朗読した方が良い」と指摘されたことがあります。しかし、子供たちが西郷遺訓を元気に朗読し、「誠を尽くして行こう！」という言葉が飛び交うクラスに

なっていたことで、今は黙認してくださっています。

三、小学生に語る「江戸無血開城」

西郷の「誠」を象徴する歴史的名場面と言えば、私は「江戸無血開城」ではないかと思えます。戊辰戦争の焦点とも思われた江戸総攻撃を控えた新政府軍の西郷と、旧幕府軍の勝海舟の見事な談判によって、平和的に江戸城が明け渡されたのです。この場面を授業で取り上げることで、遺訓の朗読にもさらに力が入ると思い、授業用に作成したスライドを基に、勝との談判に臨む西郷の姿に迫っていきました。

勝の促しにより、徳川十五代將軍慶喜は「恭順（新政府軍に従う態度をとること）」の姿勢を示すために蟄居生活に入り、旧幕府軍の全権を勝に委ねます。しかし、勝に対して、ほとんどの幕臣は「大逆臣、国賊」と非難し、勝は命まで狙われます。そのような立場の中で、旧幕府軍の暴動を抑えて恭順の意があることを証明し、江戸総攻撃を中止させ、かつ徳川家の面目がある程度保たれるように新政府軍と交渉するという大難事を、勝はやってのけなければならなかったのです。

この大難事をやり遂げる上で、勝は「ただ西郷一人

ないが、ただこの西郷の至誠は、おれをしてあい敢くことができなかつた。」

この勝の言葉は、原文のまま子供たちに伝えました。子供たちも「すごい」と声を漏らし、驚嘆していました。最後に『南洲翁遺訓』の言葉を紹介して、授業を終えました。

事大小となく、正道を踏み至誠を推し、一事の詐謀を用うべからず。

子供たちの授業の感想文を、一部紹介します。

「西郷さんのように『いろいろ難しい議論もありますが私が一身にかけてお引き受けします』と言えるような人になりたいです。」

「小さいことでも正しい道を進んで、『真誠』を貫いていこうと思いました。」

この授業が終わった後、「夏休みに鹿児島のお母さんの里に行くので、その時に西郷さんゆかりの地をまわりたいと思います」と言いに来てくれた女の子もいました。

四、「感動の種」をまぐ道徳教育

道徳教育について、占部賢志先生（元中村学園大学

を眼中においた）のです。江戸総攻撃直前、非常に緊迫した雰囲気の中、勝は西郷に対して総攻撃中止を願ひ、必死に訴えたことでしょうか。この時の談判について、勝自身、後に「もしこれが他人であつたらいろいろさく責め立てるに違いない」と言うほどです。しかし、西郷は勝の必死の訴えに対してただ一言、「いろいろむづかしい議論もありましようが、私が一身にかけてお引き受けします」と答えるのです。

総攻撃の流れはできていました。その流れを西郷は一身に引き受け、総攻撃を中止させたのです。並大抵のことではできない決断です。勝はこの時の西郷の様子を『氷川清話』で語っています。小学生たちも聴き入った談話です。

「このとき、おれがことに感心したのは、西郷がおれに対して幕府の重臣たるだけの敬礼を失はず、談判のときも、終始坐を正して手を膝の上のせ、少しも戦勝の威光でもつて、敗軍の將を誅べつするような風が見えなかつた事だ。∴（中略）∴西郷におよぶことのできないのは、その大胆識大誠意とにあるのだ。おれの一言を信じて、たった一人で江戸城に乗り込む。おれだつてことに処して、多少の権謀を用いないことも

教育学部教授）は次のように述べられています。

「人間の心はえや振舞いの一つ一つにも『美しさ』があります。しかもこれらの『美しさ』は、私たちの心に感動をもたらし、よこしまな欲望さえも浄化させる、そうした大変強い力をもっているのです。そういう意味で、じつは道徳教育の根幹は、私たちの心に感動の種をまき、育てていく情操教育として捉える必要があります。人の献身的な行為に接して、そのたとえような美しさがみずからの心を染め上げる。そうした経験がいずれ勇氣や正義、畏敬の念を育てていく。」

（『語り継ぎたい美しい日本人の物語』より）

人間の「美しい生き方」に触れて感動する。その感動が様々な日常や人生の局面において、花を咲かせ指針となり力となっていく。まさに道徳教育とは「感動の種まき」です。

今後とも私は、その「感動の種まき」の教材として『南洲翁遺訓』を用いながら、世のため人のために献身的に尽くす心、正義と勇氣と誠を貫く心を育てて行きたいと思っています。

授業を受けての子供たちの感想

今日のふり返り
 私は、人がましことぜった
 いに良いことはないとい
 うことがわかりました。ま
 た、これからは、小さいことを
 つまねる 大きい 真誠に
 いいたいです。

今日は、西郷さんについて学
 びました。この前西郷さんの伝記を
 図書館で借りて読んでみて、
すごくいい人だと思いました。
 私が特に心に残っているのは、
 「事大小となく」という言葉で
 す。意味をしてその通りだと思いま

今日のふり返り
 今う回は、西郷さんも大きく
 と思いました。西郷さんが
 うい言えた、大きくから私も西
 郷さんに そんな言葉を い
 うように なりたいです。

今日のふり返り
 西郷さんはすごくいいことを
 しているの決してけばらず
 他の人が せいたくなくらし
 をしているもがかわらず
 農民といいしよにし そな
 生活したりす ぐく 人間
 としての

今日のふり返り
 小さいことでも続けれ
 ば大きくなるとか
 かりました。西郷隆
 盛はむずかしいこ
 とでも引き受けて
 いたので私も少しづつま
 ねしたいです。

今日のふり返り
 わたしは大きくの 心を これから
 大事にしたいと思いました。まへの学習台
 をもうごしたが、西郷さんのいいん
 のクラスがもてるようにトーンで
 がんば、こいまにいごす ほがの まま
 もど みたいです。

今日のふり返り
大きい ことを して 自 立 つ た り す る の
で は な く て 小 さ い こ と で も 正 し い 道
を す ま ん て 真 誠 を つ ら ぬ
い そ の こ う と 心 に ま し た。

今日のふり返り
 これからは、西郷隆盛のこうな事 大 小 と な く
 正道 を 守 り て 心 の お し い 人 に な る よ う に
 どんくしょうとも い ま し た。
 西郷さんの よ う に い い ま す か し い ま す
 も あ り ま し よ う に か れ の 一 身 に か け て お 引 き
 進め ま し よ う に い い ま す よ う に な り た
 いい す。